

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜わり、誠にありがとうございます。
本日、平成 22 年度中間期の業績について公表いたしました。

< 22 年度中間期の回顧 >

中小企業を取り巻く環境に依然不透明感が残るなか、商工中金はセーフティネット機能の発揮を最重要事項とし、法定された指定金融機関として危機対応業務を中心にその機能の発揮に全力をあげて取り組みました。制度開始以降の危機対応業務の累計実績は 5 万 3 千件、3 兆 6 千億円を超える規模となり、中小企業の皆さまの資金繰りと経営の安定化へのサポートを通じて、地域の雇用維持・経済の安定化に大きく貢献することができました。

中小企業の皆さまの企業価値向上に向けては、政府の「新成長戦略」や日本銀行の「成長基盤強化を支援するための資金供給制度」創設等を踏まえ、今後成長戦略分野で成長を目指す中小企業の皆さまを支援するため、商工中金においても「成長戦略総合支援プログラム」を平成 22 年 7 月に創設し積極的に推進しました。

収支につきましては、資金調達コストの抑制などによる資金利益の改善に加え、早期の経営改善支援等に取り組むとともに政策効果による企業倒産の減少に伴い、与信コストが減少したこと等により、154 億円の連結経常利益（単体では 143 億円）、80 億円の連結中間純利益（単体では 73 億円）を計上するに至りました。この間の株主の皆さまならびにお取引先の皆さまのご支援に厚くお礼申し上げます。

< 今後の業務運営 >

商工中金としましては、求められる役割の大きさを十分認識し、引続き、「セーフティネット機能の発揮」を最重要事項とし、危機対応業務を中心にその機能発揮に万全を期して取り組んでまいります。

また、「中小企業金融の円滑化」を目的とした金融機関として、その使命・役割を的確に発揮していくため、新たに創設した成長戦略総合支援プログラムを活用する等、中小企業の皆さまの持続的成長（＝中小企業の皆さまの企業価値向上）に向けて全力でサポートしてまいります。

加えて、引き続きお取引先中小企業の皆さまに良質な資金供給を果たしていくため、限られた経営資源を最大限有効に活用する観点から、業務の効率など経営合理化に不断に取り組んでまいります。

これら諸課題への取り組みを強化することによって、使命である中小企業組合と中小企業の皆さまの成長と企業価値向上に貢献するとともに、当金庫自らの健全な経営基盤の構築と収益力の向上へ繋げてまいります。

大変厳しい環境ではありますが、「中小企業の、中小企業による、中小企業のための金融機関」として、皆さまから信頼され、支持され、これまで以上にお役に立てるよう、役職員一同、全力で努力を続けてまいります。

今後とも格別のご指導とお引き立てを賜わりますようお願い申し上げます。